

## 2010年新年賀詞交歓会／挨拶

J A B M 会長 芳賀 美次

会員の皆様、改めまして 明けましておめでとうございます。今年が景気も回復方向に向かい、皆様にとって飛躍の年になることを、お祈りいたします。

まず本日は、賀詞交歓会にご参加いただき、ありがとうございました。

日頃より会員の皆様のご支援とご協力のお陰様で、協会運営も大略スムーズに行われております。この場をお借りし、心より感謝申し上げます。

さらに、先程は、「新春公開セミナー」をご講演していただきましたが、講師の皆様におかれましては、大変貴重で有益なお話、本当に有り難うございました。これからの技術開発・新商品開発に、大いに参考になることと思います。

さて、年頭にあたりまして、一言、協会の活動状況と当協会が集計致しました、2009年度のボンド磁石の生産推定をご報告致したいと思っております。

まず、活動状況ですが、2009年も会員の皆様にお役に立つ協会を目指して、5月と9月には技術例会を行い、12月には国際シンポジウムを開催しました。

5月の技術例会は、硬質磁性材料関連を行い、9月は、軟質磁性材料関連を行いました。そして、12月のシンポジウムは、硬質と軟質磁性材料及び海外磁性材料の最新情報を含めた内容にしました。

講演会のテーマは、会員にとって関心が高いと思われるものを、技術委員会で厳選・検討して決めました。ただ昨年は、不況の影響か、一昨年より10%位少ない参加者で、410名程度でありました。

企画委員会が担当する、新春記念講演会は、昨年は、ロシアと中国にスポットを当て、それぞれの国民性や産業の状況などをお話しいただきました。

また、12月3日の「世界ボンド磁石生産推定討論会」も、企画委員会の主催になりますが、国内と中国からの参加者で行いました。ボンド磁石の生産出荷統計は、世界中どこでも行っておりません。この様な理由から当協会は、今後も継続して行って行きたいと思っております。ただいろいろな要因で出荷統計のデータが次第に得にくくなってきております。企画委員の皆さんが、今回も大変苦労しながら周到な準備を行ったお陰で、活発な討論になり、生産統計値もどうにかまとまりました。

また、一昨年からはじめた勉強会の「寺子屋BM塾」は、浜野塾長によって企画され、磁性材料の基礎的内容を6回に分けて行いました。参加者は延べ130名で一昨年より減少しましたが、充実した内容で活発に行われました。

今年の5月から始まる「モータ技術入門」は、今日PRさせていただいておりますが、この分野では、大変有名な谷腰欣司さんをお願いして行います。寺子屋も基礎的な勉強から、現場に近い、現場力を高める内容になってきております。

BM Newsは、年2回発行しておりますが、皆様のお手元に行っていると思っております。また、当協会は、校正用磁石の頒布をしてきておりますが、在庫が少なくなってきたため、藤平技術委員が中心になって、50セット作り、間もなく頒布出来るようになります。見学会は、5月に「先端技術館」を見学しました。

以上が協会の活動状況の概略であります。

続いて、2009年のボンド磁石の生産推定を 簡単にご報告致します。

この集計は、企画委員会が行い、木之下企画委員長が中心になってまとめていただいたものです。まだ最終結果ではありませんが、概略次のようになります。なお協会としての公式発表は、3月末頃になる予定です。

それでは集計結果をご報告します。 2009年の日本国内に於ける生産は、大変悪く、重量では8,560トンで前年比70%、金額では、161億円で前年比69%の見込であります。

この数値に中国やタイなどで生産されている、日系企業の海外生産金額229億円（前年比63%）を含めると、合計390億円になり、前年比65%になると推定されます。

ボンド磁石は、一昨年の金融危機以降低迷を続けた需要は、第2四半期からゆるやかな回復を見せましたが、対前年比では、全ての分野で大幅な減少となりました。また、金額面では、一昨年からの為替相場の大きな変動（22%の円高）を踏まえ、その金額を補正したため、見かけ上、重量よりも大きな減少となっております。

ボンド磁石の分野別では、フレキシブルボンド磁石が国内で2,530t（前年比70%）、金額で19億円（前年比70%）でありました。2008年には好調であった小型モータ回転用が、激減し、また底堅く推移していた吸着・雑貨用途も大幅に減少する見込みであります。

リジッドボンド磁石は、5,670t（70%）、金額で84億円（70%）でありました。主用途であるレーザービームプリンターや複写機複合機のマグネットロールなど、OA分野での在庫調整が長引いたことと、企業のコスト削減や投資抑制によるオフィス関連需要の減少により、今まで順調に伸びていたリジッドボンド磁石の生産量が、対前年比で、重量・金額とも大幅に減少しました。

希土類ボンド磁石は、数量で360t（69%）、金額で57億円（66%）でありました。一部、モータ回転用途で、日系メーカーから中国ローカルメーカーに生産シフトしているとの話もあり、市場の回復度合いよりも、ボンド磁石の回復が遅れているのではないかと推定されます。

以上で当協会がまとめた、ボンド磁石の生産推定値の報告を終わります。

最後になりますが、今年の正月には、日本のGDPが今年中国に抜かれ3位に転落するとか、米国の新車販売台数が中国に抜かれた、など中国の景気回復の早さに関連するニュースがいろいろ流れました。若い頃マラソンをやっていて、後ろからより早いランナーに追い抜かれると、心理的にダメージが大きかったことを思い出します。日本の産業に取ってそして、ボンド磁石にとっても、心理的ダメージが無いように、今年は冷静で強い精神力が要求されると思います。

そのためには、ボンド磁石にとって2010年は、活力を生むさらなる技術的強化が必要になると思います。何か一つだけ課題となる例を上げるとすれば、異方性ボンド磁石の技術力強化が上げられます。射出成形によるフェライト異方性ボンド磁石は、異方性用金型をはじめ総合的な技術力が必要であります。日本は圧倒的に強く、中国は現状では、あまり行っておりません。

昨年12月のシンポジウムでマグネクエンチインターナショナルの和田さんから、ネオジム系異方性磁石粉MQAの説明がありました。異方性ボンド磁石の最大エネルギー積が、18 MG·Oe も出ているが、ラジアルリング磁石では、配向度が低く、着磁も十分出来なため、磁力を十分発揮することが出来ないと発表されました。

今年は、MQAパウダーはどこでも手に入りますので、配向・着磁技術の開発を我々が行うことが、日本のボンド磁石の競争力強化に大変重要と思います。

今年も厳しい経済環境が続くと思いますが、各社の技術力強化が課題になります。新製品開発や新市場の開拓は、情報集めだけに終わらず、自分の頭で考え・行動することが、今年特に要求され、技術力強化に最も重要と思います。

当協会もお役に立つように、努力してまいりますので、2010年も大いに頑張ってくださいませ。

これで終わります。ご静聴有り難うございました。